

2017.12.3 待降節第一主日

## 目を覚ましていなさい

マルコによる福音 13:33-37

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。それは、ちょうど、家を後に旅に出る人が、僕たちに仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているようにと、言いつけておくようなものだ。だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分からないからである。主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見つけるかもしれない。あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていない。」

### 説教

きょうは待降節の第一主日です。

待降節はラテン語の「Adventus アドヴェントゥス」英語では「Advent アドベント」と言います。待降節は期待をして主の降誕を待ち、クリスマスを準備する期間であり、キリスト教の暦（こよみ）のうえでは典礼暦の始まりです。今日から一年間は福音朗読はマルコ福音となります。

すでにイエスは2000年前に到来している。

また、終末、終わりの日に再び到来する。

イエスを待ち望むわたしたちの態度はイエスの誕生日（2000年前の出来事）を祝うという面と、再びやってくるイエス・キリストを待ち望む（未来の出来事）という面、過去の事＝イエスの誕生、未来・将来の事＝終末の日というに二つの側面があります。町々にはイルミネーションが飾られクリスマスソングが流れイエスの誕生をお祝いするムードが高まります。これは過去におきた出来事、イエスの誕生を祝う面です。このイエス誕生という過去の出来事は、福音を詳しく読んでみればそうそう明るく喜ばしいことでもな

いのですが、明るく脚色されてわたしたちを励まし元気づける行事として行  
わています。

きょうの福音はアドベントの二つの面の未来の出来事の面を語ります。「目  
を覚ましていなさい」つまり終末の日、最後の時、キリストが再臨の時に  
眠っていてはいけない、と「主人の帰りを待つしもべ」に譬えて教えていま  
す。

さて、未来を出来事（終末、キリスト再臨）を福音が語るときにもまた2つ  
の面があります。

ひとつは「希望」で、もうひとつは「警告」です。キリストを信じるという  
点で迫害を受けていたキリスト教信者にとっては終末の時は「希望」の時と  
なります。いまは苦しく辛いけれどキリストは再びやってきてわたしたちを  
救ってくださるという希望です。もうひとつの側面は「警告」になります。  
やがてやってくる終末の時をあなたは忘れてはいないか、裁きの時にたいす  
る備えができていますか、怠ってはいないかという「警告」です。小さい者  
に一杯の水を与えていますか？せっかく預かったタラントンを土に埋めて安  
心して怠っていませんか？用意していたたいまつのお油は切れていませんか、  
肝心な時にともし火はともりますか？などなど…

クリスマスの飾りつけではしごを架けてツリーに電飾をつけている時にも、  
空をみまわしてイエスの再臨の時は今か今かとみているとしたらそれはマン  
ガです。もし、その時に一杯の水をあげるのを怠ったことを思い出し、あわ  
てて駆け出したとしてもやっぱりマンガです。

イエスの到来を二つの意味（キリスト生誕、キリスト再臨）で待ち望んでい  
るか、そのことを想うと心の中でポッと火が灯るか、そのことを自分自身で  
確かめなさい、もし忘れていたら火をともしましょう、警告をこのような二  
つの意味でバランスよく受け止めることが大事なことだと私は思います。

-----